

平成24年度採択プログラム 中間評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	金沢大学	整理番号	L01
1. 全体責任者  (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。  (ふりがな) やまざき こうえつ 氏名・職名 山崎 光悦 (金沢大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) なかむら しんいち 氏名・職名 中村 慎一 (金沢大学副学長(研究担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) かがみ はるや 氏名・職名 鏡味 治也 (金沢大学大学院 人間社会環境研究科 研究科長・教授)		
4. 類型	L<複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	文化資源マネージャー養成プログラム	
	英語名称	Graduate Program in Cultural Resource Management	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(社会環境学 又は 文学 又は 学術) 付記:文化資源マネージャー養成プログラム修了		
7. 主要分科	((① 文化人類学 ) ) ((② 史学 ) ) ((③ 哲学 ) ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	計算基盤、文化財科学・博物館学、地域研究、芸術学、言語学、法学、政治学、経済学、社会学、教育学		
8. 主要細目	((① 文化人類学・民俗学 ) ) ((② 考古学 ) ) ((③ 美術史 ) ) ※ オンライン型は太枠に主要な細目を記入		
	メディア情報学・データベース、文化財科学・博物館学、地域研究、宗教学、思想史、美学・芸術諸学、芸術一般、言語学、国際法学、政治学、国際関係論、財政・公共経済、社会学、教育社会学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	大学院人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、同法学・政治学専攻、同経済学専攻、同地域創造学専攻、博士後期課程人間社会環境学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	アジア太平洋無形文化遺産研究センター、金沢市、北京大学考古文博学院、チェンマイ大学大学院社会科学 研究科、バンドン工科大学芸術・デザイン学部、ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学		

(機関名:金沢大学 類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:文化資源マネージャー養成プログラム)

14. プログラム担当者の構成 計 28 名

外国人の人数	5 人	[ 17.9% ]	女性の人数	7 人	[ 25.0% ]
プログラム実施大学に属する者の割合 [ 75.0 % ]					
プログラム実施大学に属する者			21 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			10 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				7 人	2 人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者)					
中村 慎一	カムラ シンイチ		副学長、人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授	考古学、文化遺産学・博士(文学)	プログラムと全学的教育制度施策間の調整・連携
(プログラムコーディネーター)					
鏡味 治也	カガミ ハルヤ		人間社会研究域人間科学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授	文化人類学・博士(学術)	プログラム運営主幹、伝承文化資源に関するカリキュラム整備、インドネシア協定校との連携・調整
藤井 純夫	フジイ スミタ		人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、後期課程人間社会環境学)・教授	西アジア考古学・博士(文学)	形態文化資源に関するカリキュラム整備
中村 誠一	カムラ セイイチ		人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻)・教授	マヤ考古学、世界遺産学・修士(文化科学)	形態文化資源に関するカリキュラム整備
宮下 孝晴	ミヤノ タカハル		人間社会学域・客員教授	西洋美術史・Dottore	形態文化資源に関するカリキュラム整備
森 雅秀	モリ マサヒデ		人間社会研究域人間科学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授	仏教学、比較文化学・Ph.D	文化資源情報学に関するカリキュラム整備
西村 聡	ニシムラ サトシ		人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、後期課程人間社会環境学)・教授	日本文学・博士(文学)	伝承文化資源に関するカリキュラム整備
岩田 礼	イワタ レイ		人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、後期課程人間社会環境学)・教授	中国語学・文学修士	伝承文化資源に関するカリキュラム整備
西本 陽一	ニシモト ヨウイチ		人間社会研究域人間科学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授	文化人類学・博士(学術)	伝承文化資源に関するカリキュラム整備、タイ協定校との連携・調整
上田 望	ウエダ ノゾミ		人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、後期課程人間社会環境学)・教授	中国文学・博士(文学)	伝承文化資源に関するカリキュラム整備
矢口 直道	ヤグチ ナオミチ		人間社会研究域人間科学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・准教授	東洋建築史・博士(工学)	形態文化資源に関するカリキュラム整備
足立 拓朗	アダチ タクロウ		人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻)・准教授	考古学、博物館学・博士(文学)	形態文化資源に関するカリキュラム整備
大友 信秀	オオトモ ノブヒデ		人間社会研究域法学系(人間社会環境研究科、博士前期課程法学、政治学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授	知的財産法、ブランディング・博士(法学)	知的財産法に関するカリキュラム整備
正木 響	マサキ トヨム		人間社会研究域経済学経営学系(人間社会環境研究科、博士前期課程経済学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授	世界経済論・博士(経済学)	世界経済論に関するカリキュラム整備
香坂 玲	カウサカ リョウ		人間社会研究域人間科学系(人間社会環境研究科、博士前期課程地域創造学専攻)・准教授	森林政策、林業経済・博士(理学)	伝承文化資源に関するカリキュラム整備
有村 誠	アリムラ マコト		新学術創成研究機構・准教授	文化遺産学、博物館学・Ph.D	博物館学に関するカリキュラム整備
山形 眞理子	ヤマガタ マリコ		人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻)・特任教授	東南アジア考古学・博士(文学)	形態文化資源に関するカリキュラム整備、ベトナム協定校との連携・調整
秦 小麗	シン ショウレイ		人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻)・特任准教授	東アジア考古学・博士(文学)	形態文化資源に関するカリキュラム整備、中国協定校との連携・調整
吉田 泰幸	ヨシダ ヤスユキ		人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻)・特任准教授	東アジア考古学・博士(歴史学)	形態文化資源に関するカリキュラム整備、プログラム運営補佐
松村 恵里	マツムラ エリ		人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻)・特任助教	文化人類学・博士(社会環境学)	現地研修・調査実習指導、国際ワークショップ企画運営指導
野澤 豊一	ノザワ トヨイチ		人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻)・特任助教	文化人類学・博士(社会環境学)	現地研修・調査実習指導、国際ワークショップ企画運営指導
田村 うらら	タムラ ウララ		人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻)・特任助教	人間環境学・博士(人間・環境学)	現地研修・調査実習指導、国際ワークショップ企画運営指導
關 雄二	セキ ユウジ		国立民族学博物館研究戦略センター・教授	アンデス考古学、文化遺産学・社会学修士	博物館を利用した実習に関するカリキュラム整備協力
大貫 美佐子	オオノキ ミサコ		ユネスコアジア太平洋無形遺産研究センター(IRCI)・副所長	無形文化遺産保護、継承学、文化政策・文学士	伝承文化資源に関するカリキュラム整備協力
河原 清	カワラ キヨシ		元金沢市歴史文化・部長、金沢大学客員教授	都市政策論・博士(社会環境学)	文化資源保護、継承・活用に関するカリキュラムの整備協力



## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 無)	
プログラム募集定員数(実数)	0人	8人	8人	8人	
① 応募学生数	0人	7人	9人	7人	
	うち留学生数	0人	4人	4人	
	うち自大学出身者数	0人(0人)	0人(0人)	3人(0人)	1人(0人)
	うち他大学出身者数	0人(0人)	7人(4人)	6人(4人)	6人(4人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	1人(0人)	1人(0人)
うち女性数	0人(0人)	6人(3人)	6人(2人)	4人(3人)	
② 合格者数	0人	7人	7人	6人	
	うち留学生数	0人	4人	4人	4人
	うち自大学出身者数	0人(0人)	0人(0人)	2人(0人)	1人(0人)
	うち他大学出身者数	0人(0人)	7人(4人)	5人(4人)	5人(4人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	1人(0人)	1人(0人)
うち女性数	0人(0人)	6人(3人)	5人(2人)	4人(3人)	
③ ②のうち受講学生数	0人	7人	7人	6人	
	うち留学生数	0人	4人	4人	4人
	うち自大学出身者数	0人(0人)	0人(0人)	2人(0人)	1人(0人)
	うち他大学出身者数	0人(0人)	7人(4人)	5人(4人)	5人(4人)
	うち社会人学生数	0人(0人)	0人(0人)	1人(0人)	1人(0人)
うち女性数	0人(0人)	6人(3人)	5人(2人)	4人(3人)	
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数) (小数点第二位を四捨五入)	0.00倍	1.00倍	1.29倍	1.17倍	
充足率(合格者数/募集定員)	0.00倍	0.88倍	0.88倍	0.75倍	

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数  
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度	
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計			
平成24年度選抜						0						0						0						0			
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
平成25年度選抜												7						7						6			
うち留学生数							4	0	0	0	0	4	4	0	4	0	0	4	4	0	0	3	0	0	3		
うち自大学出身者数							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
うち他大学出身者数							7	0	0	0	0	7	0	7	0	0	0	7	0	0	6	0	0	6			
うち社会人学生数							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
うち女性数							6	0	0	0	0	6	0	6	0	0	0	6	0	0	6	0	0	6			
平成26年度選抜																		7						7			
うち留学生数													4	0	0	0	0	4	4	0	4	0	0	4			
うち自大学出身者数													2	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2			
うち他大学出身者数													5	0	0	0	0	5	0	5	0	0	0	5			
うち社会人学生数													1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1			
うち女性数													5	0	0	0	0	5	0	5	0	0	0	5			
平成27年度選抜																								6			
うち留学生数																			4	0	0	0	0	4			
うち自大学出身者数																			1	0	0	0	0	1			
うち他大学出身者数																			5	0	0	0	0	5			
うち社会人学生数																			1	0	0	0	0	1			
うち女性数																			4	0	0	0	0	4			
計	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	14	6	0	0	0	0	19			
修了者数																				6人							
就職者数																											
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数													1人						7人								

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜					0					0					0					0		
うち留学生数					0					0					0					0		
うち自大学出身者数					0					0					0					0		
うち他大学出身者数					0					0					0					0		
うち社会人学生数					0					0					0					0		
うち女性数					0					0					0					0		
平成25年度選抜										0					0					0		
うち留学生数										0					0					0		
うち自大学出身者数										0					0					0		
うち他大学出身者数										0					0					0		
うち社会人学生数										0					0					0		
うち女性数										0					0					0		
平成26年度選抜															0					0		
うち留学生数															0					0		
うち自大学出身者数															0					0		
うち他大学出身者数															0					0		
うち社会人学生数															0					0		
うち女性数															0					0		
平成27年度選抜																				0		
うち留学生数																				0		
うち自大学出身者数																				0		
うち他大学出身者数																				0		
うち社会人学生数																				0		
うち女性数																				0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
修了者数																						
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

### プログラムの概要

本プログラムは、人類文化の多様性とその相互尊重の理念を基盤に、世界各国・各地域で継承されてきた文化資源の将来に向けての意義と有用性を探求し、人類全体に向けたその活用策を案出・実践する「ローカルな文化資源のグローバルな活用を可能にする資源発掘・管理・活用策提案能力を身につけた人材」、すなわち文化資源マネージャーを養成することを目的とする。文化資源の活用は、ユネスコの世界遺産に代表される遺跡・遺物あるいは民俗芸能の観光利用のみならず、伝統的薬草や医療技術の近代医療への応用、伝統工芸の最先端技術への応用など、豊かな将来性がある。その一方で、国際的にも国内的にも当該住民の文化的アイデンティティに国の政治的思惑や企業の経済利益が絡んで対立や衝突の絶えない、現代世界の直面する重要課題のひとつである。その早急な解決には、文化資源が持つ有用性を、一部の住民や国や企業の権利や利益に留めるのではなく、広く人類全体に開かれた管理・活用策を研究・立案できる能力を備えた人材の育成が急務である。本プログラムでは、「形態文化資源」「伝承文化資源」「保護・継承・活用」に関する知識と国際的・総合的・学際的視野を備え、マネジメント能力、ファシリテート能力、ネットワーク形成能力を備えた文化資源マネージャーの育成を目標とする。

そのために本プログラムは、海外交流校から募集する留学生4名と日本で募集する日本人学生4名のチームで5年間研究調査を行う体制をとる。1年次は講義による基礎知識習得と演習によるチーム・ビルディング、調査実習、2年次は日本および留学生の出身母国での文化資源継承・活用現場での研修をチームで行い、Qualifying Examinationに相当する研究レポートをまとめる。3年次は国際ワークショップで発表と、学生各自の研究対象を確定するための日本国内外の現場視察・予備調査を行い、4年次には各自の関心・対象に応じて単独あるいは複数人でインテンシブな現地調査を行い、5年次に調査結果を分析・考察して国際ワークショップで発表するとともに学位論文を執筆・提出する。これらの活動のほとんどを国際的な編成のチームで行うことで、コミュニケーション能力の向上と相互理解の基盤を築くだけでなく、出身各国の文化特質を確認し長所を見だし発信する能力が鍛えられる。こうした人材は、文化資源においても収奪される側に甘んじている発展途上各国の政府機関や、伝統知識・技術の応用に関連した企業の研究機関などで高い需要が見込まれる。

### 特色・優位性

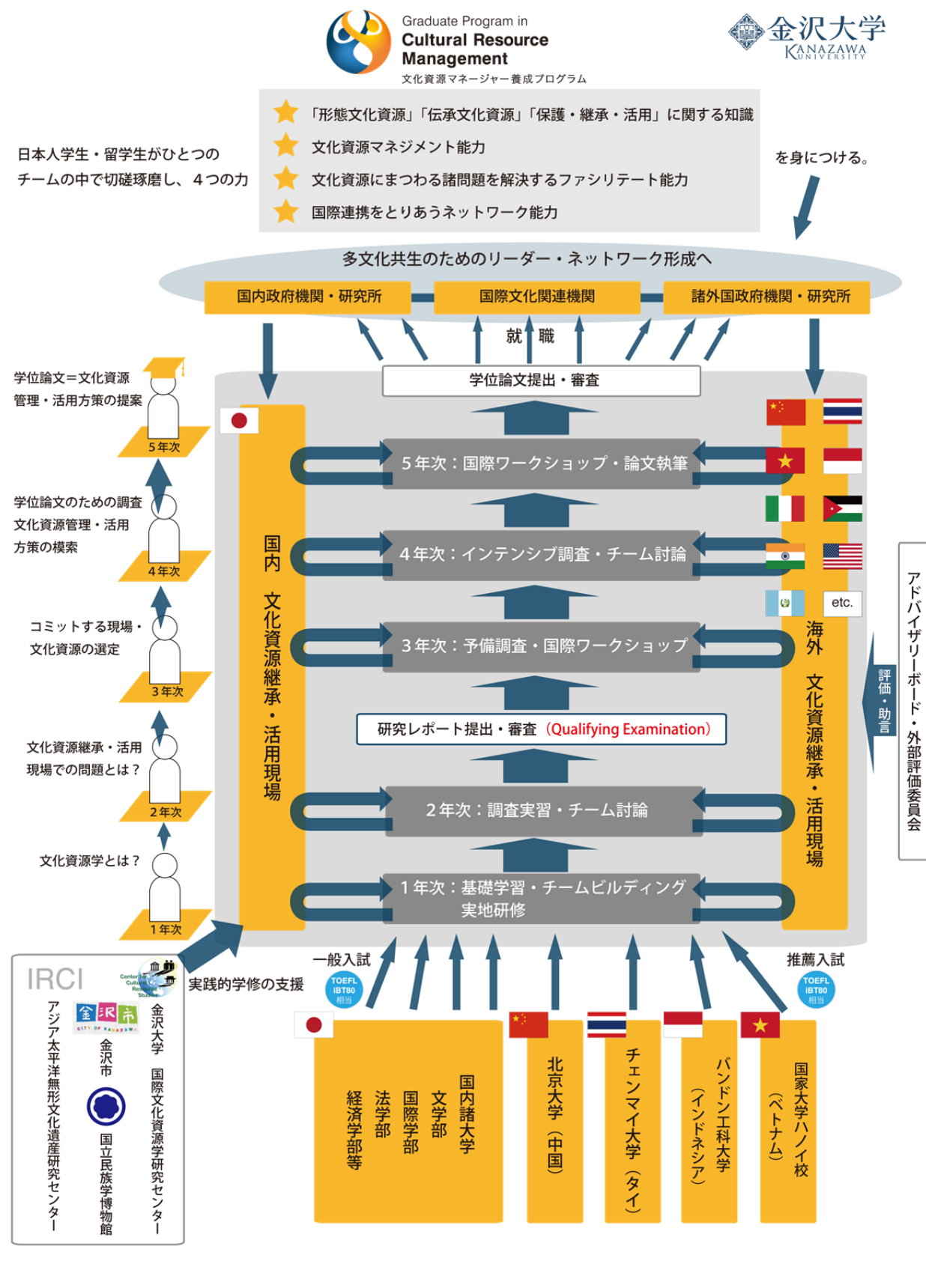
本プログラムを支える素地として、まず金沢を中心とした本学周辺の豊かな伝統文化資源がある。世界クラフト創造都市の金沢には金箔・陶磁器・漆器などの伝統工芸が今もしっかりと継承され、また近在には能登の世界農業遺産、白川郷の世界遺産などがあり、そこでの文化資源継承・活用実態は先進事例として格好の研修現場となる。他方留学生の募集先に想定している中国・タイ・インドネシア・ベトナムはいずれも経済成長著しい国で、その伝統文化の継承・活用が国家的な優先課題になっている。交流協定校の北京大学・チェンマイ大学・バンドン工科大学・ベトナム国家大学ハノイ校は各国の筆頭大学の一つで、文化資源関連の研究・教育も盛んであり、優秀な学生の確保が期待できる。

本学ではこれら協定校と連携して各種事業を展開してきた。平成19～21年度大学院GP事業ではこれらのいくつかにリエゾン・オフィスを設置し、国際セミナーを実施した。平成21年度若手研究者交流事業では上記4大学他から14名の若手研究者を招いてアジア文化資源学リネージュ金沢セミナーを、平成23年度国際大学交流セミナー事業では同じく4大学の大学院生・教員10名を招いて文化資源学アジア学生フォーラムを実施した。学内では平成22年度に先端的研究拠点として国際文化資源学研究センターを設置し、所属教員はヨーロッパから中央・東アジア、アメリカ大陸に至るまで、世界各地でプロジェクトを実施している。また平成24年度には人間社会環境研究科博士前期課程に文化資源学コースを開設した。本プログラムは前掲センター所属教員を中心に、文化資源継承・活用現場での実務者も指導に加わることで、文化資源学コースでの教育効果をさらに高めるための特別プログラムである。

以上、本プログラム申請・実施主体の人間社会環境研究科には下地となる教員組織、学生募集先、海外協定校との研究者・学生交流の点で十分な実績がある。加えて地元金沢や学内担当教員、連携機関スタッフの調査研究地である世界各地の文化資源活用現場など、本プログラムの研修・調査対象候補地を豊富に有する。それらを活用し、日本人学生とアジア各国出身の留学生が1年次からチームを組んで、各国の文化資源継承・活用現場での研修・調査を行いながら、アイデアを交換・発信しつつ、各自が特定の対象についての活用方策を提言していく点に特色がある。

### 学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)





## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	金沢大学	整理番号	L01
プログラム名称	文化資源マネージャー養成プログラム		
プログラム責任者	中村 慎一	プログラム コーディネーター	鏡味 治也

### ◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

#### 〔総括評価〕

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

#### 〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、ローカルな文化資源のグローバルな利活用を可能にする人材を輩出するため、留学生も含め出身学部の異なる学生が刺激し合い切磋琢磨できるような取組が行われている点において評価できる。しかし、文化資源マネジメント能力の涵養という観点において、当該分野を専門とする第一級の専任教員と学生が専門分野の枠を超えて緊密に議論を行うなどの充実した研究指導が行われているとはみなし難いため、今後一層の努力が求められる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、国内外での実地研修やワークショップなどを通して効果的な研究訓練が行われている点において評価できる。なお、文化資源マネージャーとしてグローバルに活躍できる多様で具体的なキャリアパスの見通しが提示できているとはみなし難く、キャリアパス開拓を専門とする職員を配置するなどの改善が必要である。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、メンター教員の配置や特任教員の活用などで組織的な支援体制が構築されている点が評価できる。国内外の多様なセクターから第一級の教員を結集した指導体制が構築されているとはみなし難い点があるため、今後一層の努力が求められる。

優秀な学生の獲得については、学生が学修研究に専念できる経済的支援（奨励金支給）を実施している点は評価できる。しかしながら、多様な背景を持つ優秀な学生の獲得、特に優秀な日本人学生の獲得のための工夫については抜本的な改善が必要である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、**Qualifying Examination**において研究レポートを課しているが、レポートのみで修得能力の包括評価が十分に行えるかどうか疑問であり、システムが十全に調えられているとは判断し難い。また、現地調査にもとづく研究レポートを修士論文とみなすことについても、グローバルリーダーに相応しい資質能力を保証する学位審査体制が構築されているとはみなし難いため、改善に向けた今後一層の努力が求められる。

事業の定着・発展については、金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学との協働によって平成 30 年度に「先進融合学術共同大学院」設置が予定されており、当該プログラムがその大学院の未来社会創造分野国際文化遺産領域として位置づけられることが検討されている点は十分に評価できる。